

---

# FAIRYTAIL ~ 大地の咆哮 ~

李央

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

FAIRYTAIL〜大地の咆哮〜

### 【Nコード】

N3625Y

### 【作者名】

李央

### 【あらすじ】

現代に生きていた神崎達也が人助けのお礼に死をプレゼントされ、神と名乗る少女に転生されてしまうという物語。彼が行く末には何が待っているのか……

俺と不幸と奇妙な始まり（前書き）

転生ものが書きたくなって始めたこの作品、楽しんでいただければ幸いです

## 俺と不幸と奇妙な始まり

俺の生きる現代では転生し二次元の世界へ飛ばされると言う二次創作の物語があったりする。「そんなのあるわけない」そう、それが正しい反応だ。俺もきつと同じ反応をするだろう

それを踏まえた上で話そう、19年間三次元で日本人をやってきた俺、神崎達也だが今の状況はどうにも信じがたい。なぜなら三次元では起こり得ないだろう展開になっているからである。

過去に遡ること一時間・・・

「はぁー・・・今日も良いこと無エな・・・」

そんなことを呟く俺、神崎達也には家族というものがいない。生まれたばかりの頃に我が家は出火。見事に大火事になったわけで偶然俺だけ助かったわけだ。親の温もりつてのがイマイチわからない。今こうして生きていられるのは俺を引き取ってくれた施設の方々のおかげさ

こんな俺でも人の子なわけであるからして、町を歩いていく家族を見ていると恋しいモノがある。愛情だ

だが、今さらそれを欲したところで手に入るわけもなく俺としては人並みに平凡な生活を送っていければ良かった。

しかし、俺という人間は幸運またはラッキーという言葉からかけ離れた人間だ。当然マシな生活は無かった。

日常で言えば、雨の日に車が通るたびに水はかかるしビルの近くを通れば必ず危険物は落ちてくる始末。他は想像にお任せしよう

ただ言えるのは某主人公のセリフ不幸だー！！まさにコレである

こんな事を考えながらも何とか生きて自宅・・・といっても一人寂しいアパートなのだが、そこへ向けて歩いていくところだ

こつも不幸では一度や二度、憂鬱になるのは許してもらえらるだろう

とまあ、不幸少年が帰る道に安全は保証されるハズも無かつたんだがな・・・それが、俺の不幸ではなく他人の不幸まで拾っちゃうとは

「おかーさん！！」

泣きながら道路に倒れている男の子。歳は3歳くらいだろうか？

状況から判断するにボールを追っていた子供が偶然道路でコケちまっただけとこだろうか。

傷が痛いのか恐怖で動けないのか、どちらにしる今日の前に迫っている車には関係の無いことだ・・・数秒もすりゃあ激突するんだからな

だからと言って、この不幸少年は子供の危機を目の前に見てるだけなんてのはできないわけで、俺は咄嗟に走り出していた

「くっそ・・・！間に合えエエ！！！」

本当に僅かな差で俺は男の子を突き飛ばすと、次に来たのは視界の暗転と体が宙を舞う感覚のみ

微かに見えた俺の視界に入ったのは道路のわきで泣いている男の子の姿。どうやら救出作戦は成功のようだ・・・今思えばここで走り出したのが不幸だったのかもしれない

でも、俺は一つの命を救えたんだよな。こんな人生だったが申し分ない最高の最後じゃねエか。俺を育ててくれた人達には悪いが感謝もしてる

アンタ達の育てた子供は体張って子供をつ助けられるんだからな・・・そういう野郎に育ててくれたことを感謝するぜ

ああ・・・意識も薄れてく、体の感覚なんざとうに無くしてるし・・・もう終わりか

視界が闇に覆われていく中で俺は幸せとは言えないが、満足な顔して死んでいった。見えたわけじゃ無いが心がそれでいっぱいなんだから、そういう顔するだろ？きつと・・・

そうして今に至る

俺は死んだはずなのに生きています。そして、いかにも伯爵がいますよ！的な見覚えのない部屋にいるわけだ。黒ばっかの部屋だ

ワインもあるし・・・つか黒多すぎだろ・・・

「貴様の人生を拝見させて貰った・・・うむ、実に面白い」

人の不幸を面白いだと？つか、誰だよ

そうして振り返ったところにいたのは、少女だった。それも黒の多い服の

「どーでもいいが、お前のマイブームは真っ黒にすることなのか？」

「何を言っている？私は死を司る神・・・貴方に第二の人生を贈ろうと言うのに・・・」

第二の人生？待ってました！転生物語！！って・・・てつきり真っ白な部屋を想像してたんだがな・・・

「第二の人生？」

「そう、貴様の望む世界に送ってやる。私をもっと楽しませる」

いよっし！・・・それにしても、随分と偉そうな子供だな

「子供？貴様、誰に向かって言っているのかわかっているのか？」

「心が読めるんだ・・・」

そうと決まればとつとと転生！！

「・・・こういった展開には何か能力を付与して欲しいというのがお決まりの展開じゃないのか？」

「そうだな・・・俺に人並みの幸せをくれ！！」

「そんなものは転生した世界でお前が作れ」

なんですとー……………コ、コイツは鬼ですか！

「鬼ではなく神だ」

「いちいちツツコんでくるな！」

能力か……別に何か欲しいってわけでもないんだけどな……

「欲しい物は俺が手に入れるからいい、さて転生とやらを始めてくれ！」

「変わった奴だな……だが、面白い！さあ、貴様の望む世界へと旅立て。今度こそ幸せがつかめるといいな」

そう言った少女の顔はとても優しいものだった。

それから、だんだん眠くなり俺の意識は闇の中へと落ちていった……

## 家族の温もりと、突然の別れ

ああ・・・みなさん。初めまして？いやいや、お久しぶりです。元神崎達也ことベビー・・・いわゆる赤ん坊ですよ

それでもって一言

「ばぶばー！！！！」

え？何言ってるかわからない？ふっ・・・決まってる「不幸だー！！」これに尽きるだろうぜ

状況を整理していこう

俺はある事故がきっかけで自称神の少女に部屋にお呼ばれされ、別世界に飛ばされたっていうお決まりの転生物語の展開をやったのけたわけだ

そう、まさかこのような事態になるとも知らずに

今俺は赤ん坊、そして目の前にはドラゴン・・・そう、竜だよ竜。もう失神してもいいよね？そんじゃ、バイバーイ・・・

その後・・・

さて、今日覚めた俺がどういう訳か生きてるんだ。それも、竜に育てられてるし！！

つか、俺の親はどこ！？家族の温もりは！？・・・はあ、この世

界に来ても親の温もりがわからないってのか？

はぁ・・・これからどうなっていくんだろっな・・・

- それから数年後 -

俺にも親の温もりってのが分かった気がする。人じゃなくて竜のだけれどな。あの衝撃の出会いから数年、大地の竜アルディナに俺は育てられて生きてきた

なんつーか体も頑丈になった気がするし魔法も覚えた

俺はアルディナの愛情に育てられてここまで育ったんだ、とても暖かい良いものだ

ああ、転生して良かったなって・・・すっげー幸せな気分だ。できれば手放したくはない、だってそうだろ？せっかくつかんだ幸せなんだ

でも・・・それはできなかった

ある日突然、ウルディナが姿を消した。俺には何も言わずに・・・

泣いたさ、この体から水分が無くなるくらいに・・・この世界へ来て初めて味わった真の不幸だった

だけど、俺はまたウルディナに会いたい・・・！！だから、探すことに決めただ。そうそう、今思い出したんだけどここはFAIRY

TAILの世界なんだよな・・・だったら、最初に妖精の尻尾を探  
すか

「そうと決まれば出発だ、時間がもったいなエ!!」

俺はウルティナとの思い出の物。

ウルティナのグローブを手にはめて歩きだした

## オリ主設定

クロノ・アルディ（元神崎達也）

年齢不詳、本人が数えていなかったためわかっていない

身長は186、好きなものは大地、嫌いなものは不幸

大地の竜アルディナに育てられた少年。黒髪で髪型はゼレフと一緒。顔はジエラールに似ている

### 大地の滅竜魔法

大地の竜は特殊な重力場を作り出しており、体に周りにある岩などを重力で固めて覆っていることが多い。なお、この重力によって固められた物は地竜の鱗と同等の防御力を誇るのが特徴である。クロノの使う魔法は重力を操る力。食べるものは自然（陸地にあるものに限る）だが、力の回復具合が物によって変わる

### 地竜の咆哮

・口から重力の波動をプレスとして放つ

### 地竜の鋼拳

・拳に重力を纏い相手を殴る。周りのモノを引き寄せて拳に固めて殴ることも可能

## 地竜の鉄槌

- ・重力球を放ち、周りの物を引き寄せて相手にぶつける

## 地竜の鉤爪

- ・足に重力を纏い相手を蹴る

などといったように、地竜の使う特殊な重力を操る

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3625y/>

---

FAIRYTAIL ~ 大地の咆哮 ~

2011年11月9日01時05分発行